

# Learning Teachers' Forum

～英語を教えるすべての人へ～

## Column 1 高校教師と大学講師の一人二役 生徒の意欲に応える授業

フリーで英語を教えながら、広島県福山市にある銀河学院中学高等学校で英語講師を務めるほか、岡山大学でTOEIC講師をもこなしている森岡光生さん。それぞれ学習内容も目標も異なる2つの学校についてお話をうかがった。「高校での授業は、教科書に沿った授業(リーダー、ライティング)が中心です。生徒は『英語を上達させたい』という意欲がとても高く、その気持ちがストレートに伝わってきます」と話す。そのため、「高校生には、大学受験のための基礎学力の徹底に加え、意欲的な生徒には高度な英文読解にもチャレンジしてもらっています」と、授業範囲を超えて生徒がさらに英語力を伸ばす機会を用意している。

大学での授業についても、「学生のモチベーションはとても高く、短期間にTOEICのスコアを上げたいという意欲がひしと伝わってきます」と、高校・大学ともに高いモチベーションを持つクラスを担当している。「どちらの生徒さんも熱心ですから、メ

その熱意にこたえられるよう、日々の授業に工夫を凝らしています」と、森岡さんの熱心さも加わり、非常にいよいよ学習環境が形成されていることがわかる。

「受験」という意味では高校クラスも大学クラスも同じであり、結果が気になるという森岡さん。大学での成果について、「秋に実施した2ヶ月間の講座では、受講生の約半数が100点以上のスコアアップを達成しました。中には240点アップした学生もいます」と、先生の熱意と生徒の熱意が合わさる環境が、素晴らしい結果をもたらしているのだろう。



森岡光生さん  
銀河学院中学高等学校 非常勤講師  
岡山大学生協主催TOEIC講座 担当講師

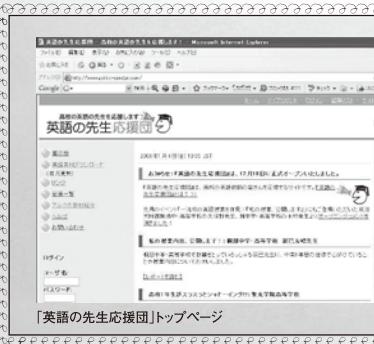
## Column 2 転職して英語教師に

森岡さんは、会社員を12年間経験した後に英語教師になつたとのことだ。「浪人中、予備校で教えていただいた先生のすばらしい授業に感銘を受け、いつか自分もその先生のようになりたいと思っていました」という森岡さん。「就職後、ずいぶん日がたちましたが、やはり思い切って教師の道にチャレンジしようと思いました」と、決断したのは2004年のことだ。その後教員免許を取得。2007年から教職に就いている。英語教師になって良かったことは、「毎日、元気な生徒たちの笑顔を見ることが出来ることですね。むしろ私のほうが生徒から色々と学ぶことが出来、元気をもらっているように感じます。毎日がとても充実していると感じます」と話す。英語教師として充実した毎日を送るには、きっとメ

目指すは90歳で現役教師

自己研鑽も行っているのだろう。「先日はアルクの『TOEIC指導者養成講座』に参加しました。講座の内容はもちろんのこと、全国から集まつた意欲的な英語の先生方と交流を持つことができて良かったです」と積極的に教師向けのセミナーに参加しているそうだ。「また、日ごろは空いた時間にCNNやABCといった英語のニュースを聞いたり、ペーパーバックを少しづつ読み進めたりしています」と英語で情報を得ることも欠かさない。

森岡さんの今後を聞くと、「少し大きさですが『90歳まで現役で教壇に立つたい』と思っています」との回答。あくまで現役として、教育の現場に居続けたいという思いは、英語教師が天職だということだろう。



### 英語の先生を応援するサイトがオープン

高校で実際に行われている、ユニークな英語授業の取り組みなども紹介中。教材の活用法や生徒との信頼構築法など有益な情報がたくさん掲載されています。メンバー登録(無料)を行うと…

- 質問と回答の形式によるお悩み解決ができます
- アルクの英語素材の一部をダウンロードできます
- 全国の高校英語教師と情報交換ができます

URL ►► <http://www.gakko-oendan.com/>